

分娩前乳汁の目視検査による 牛乳房炎の早期診断方法

乳牛の乳房炎は分娩後の発症が多いことから、分娩前に乳房炎を診断して生乳出荷のない期間に治癒させることが推奨されています。近年、分娩前の乳汁の粘度と CMT 所見から乳房炎を診断する事例が見られますが、酪農家や関係者の多くは分娩前に乳汁を採取する習慣が無く、また、分娩前の乳汁に関する情報を持っていません。そこで、分娩前7～10 日前に採取した乳汁の外見から乳房炎を早期に診断できる技術を開発しました。

☆ 技術の概要

1. 分娩前乳汁を用いた牛乳房炎の早期診断方法は、始めに乳汁の色を区分し、次に乳汁の粘りで正常または異常の疑いを判別します。異常の疑いがある乳汁の CMT を実施します (写真 1)。
2. 色が黄～黄土色、半透明色の乳汁、粘りが練乳～水アメ状の乳汁は乳房炎の原因菌が存在せず、体細胞数も低値で正常な乳汁性状です。
3. 色が血乳色、白～淡黄色の乳汁、粘りが水状、初乳状の乳汁は乳房炎の原因菌による異常の疑いがある乳汁性状です。
4. CMT 凝集反応が陽性の乳汁は原因菌陽性率が高く体細胞数も多く乳房炎と診断されます。

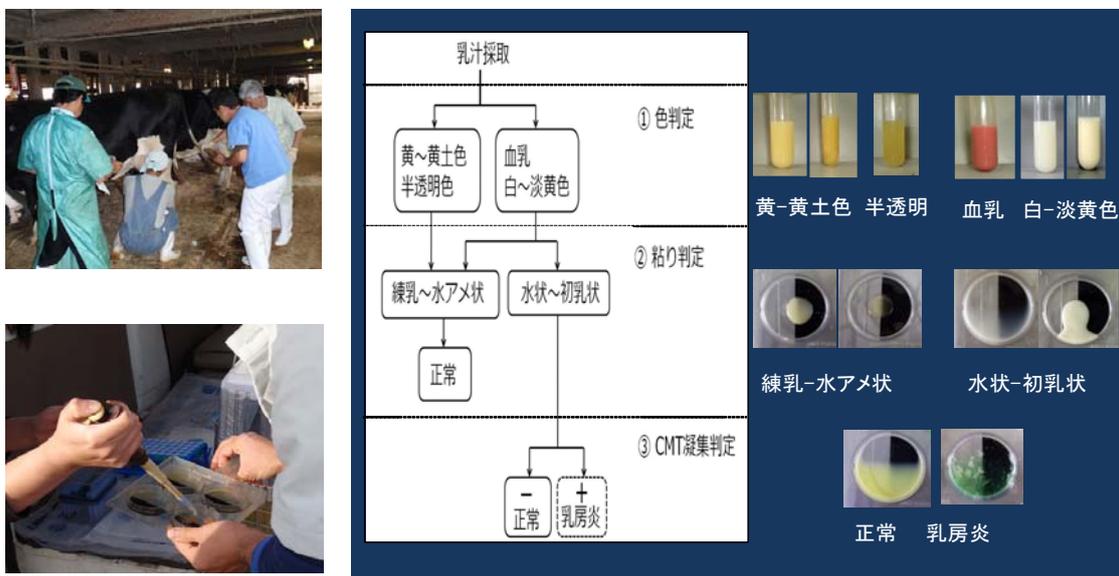


写真 1 乳汁の採取状況と分娩前の乳房炎診断フロー図

☆ 活用面での留意点

分娩予定7～10 日前に乳頭口を消毒してから採取し、採取後はディッピング液で消毒します。なお、半透明色の乳汁は薄茶色のアメ色が多いが、血乳や黄色の半透明色もあります。詳細は、福岡県農業総合試験場家畜部乳牛チーム北崎宏平(TEL: 092-925-5232)にお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)